

日本地域福祉学会

No.59 2009.3.31

発行 日本地域福祉学会

〒160-0008 東京都新宿区三栄町8 森山ビル西館401

TEL 03-5363-1518 FAX 03-5363-1519

URL <http://www.soc.nii.ac.jp/jracd/> E-mail chiiki-g@jt2.so-net.ne.jp

発行人：牧里每治 編集人：和気康太

CONTENTS

第23回大会開催にあたって	1
意見交換会第2弾報告	2
21年目の富山県地域福祉研究会	4
地域福祉国際シンポジウム報告	5
中国・四川省地震寄付報告	6
新入会員紹介	7
「日本の地域福祉」第23巻執筆要項	7
INFORMATION・編集後記	8

日本地域福祉学会 第23回大会開催にあたって

日本地域福祉学会第23回大会実行委員長 **岡本 健** (中部学院大学学長)



日本地域福祉学会第23回大会の開催にあたり、ごあいさつ申し上げます。

開催地となる岐阜市は、1300年の歴史を持つ長良川鵜飼が有名であります。かの松尾芭蕉も、「おもうしろうて やがてかなしき 鵜舟かな」という句を残しています。第1日目会場となる長良川国際会議場からは、織田信長の居城であった岐阜城を眺めることができ、第2日目の会場となる関市は、刃物の町として栄え、その歴史は700年以上になります。また、岐阜は円空ゆかりの町としても有名です。

高山まで足をのばせば、その古い町並みや陣屋前の朝市、世界遺産である白川郷もお楽しみいただけます。

このような歴史と文化の地において開催する大会のテーマを「新たな『つながり』と『支え合い』の地域福祉のあり方を問う—社会的排除から包摂へつなげるコミュニティの再興—」といたしました。

2008年3月の「これからの地域福祉のあり方に関する研究会」の報告書「地域における『新たな支え合い』を求めて—住民と行政の協働による新しい福祉—」を踏まえ、ここ10年近く強調されている社会的排除や摩擦、孤立や孤独などの地域における多様な生活課題を整理し、課題を解決していく方策として期待されている新たな住民相互の「つながり」と「支え合い」、住民と行政などが協働する「新たな公」のあり方について議論します。

さまざまな地域における取り組みの状況とその成果、展開していく上での問題点や課題などをめぐって歴史的・実証的に評価・検証することからはじめ、これを踏まえて、ソーシャル・インクルージョンと住民主体の視点から、コミュニティの再興と地域・住民主権の地域福祉の可能性や方向性を議論する場としたいと考えています。

第1日目は、長良川河畔にある、長良川国際会議場にて開催いたします。開会式、優秀実践賞の表彰の後、本学会会長である牧里每治先生より、基本的な問題認識について提示いただきます。

午後からは、本学会副会長である和田敏明先生より基調報告をいただき、これを受けてメインシンポジウムへとつなげていきます。

第2日目は、中部学院大学関キャンパスに会場を移し、自由研究発表とともに、地域福祉優秀実

実践報告、2つの岐阜シンポジウム、学会研究プロジェクト報告を予定しております。

岐阜シンポジウムは、「岐阜県における地域福祉推進の自治的取り組みと福祉まちづくり実践—市町村合併後の参加・協働型地域福祉システムを考える—」（岐阜シンポジウムA）と、「社会的排除から包摂へつなげるコミュニティの再興—先人の智慧に学び、岐阜の地域福祉の明日を拓く—」（岐阜シンポジウムB）の2つのテーマを準備しております。

岐阜シンポジウムAでは、岐阜県内の地区住民組織での取り組み事例や福祉のまちづくりへの主体的な取り組み事例を基に、分権型社会における地域協働のシステムについて考えていきます。

岐阜シンポジウムBは、岐阜県の風土が生んだ地縁・血縁組織を新たなつながりづくりにどのように活かすか、先人たちの生活の智慧に学ぶ、という視点から進めます。「古いつながり」の事例と、外国籍住民という立場から自らの生活課題に取り組む事例を取り上げ、「地域特性を踏まえた新たなつながりづくり」に取り組む際の基本的な方向性について検討していきます。

これらは、研究者、専門職のみならず、地域で福祉に関する活動をされている方々にもご参加いただきたいと考えております。

中部学院大学は、1997年に開校し、今年で13年目となります。人間福祉学部人間福祉学科の1学部1学科でスタートし、現在では、リハビリテーション学部、子ども学部、経営学部の4学部体制となり、大会開催にあたっては、全力を挙げて協力するつもりであります。また、地域の多くの機関・団体からの協力・後援を得て準備を進めてまいりました。多くの会員みなさま、地域で実践をされている方々にご参加いただき、自然豊かな岐阜の地で、地域福祉を進める議論が深まることを楽しみにしております。